

認知症対応型共同生活介護 認知症グループホームくつろぎ

1 基本方針

認知症になっても入居者一人ひとりが個人として尊重され、住み慣れた地域の中で築いてきた暮らしを大切にしながら、その人らしく生活できることを目指す。

2 今年度重点事業目標

(1) 専門的ケアの実施と個別支援

- ア 個々の特性や認知症を正しく理解し、根拠に基づいた視点で生活を支援する。
- イ 入居者の尊厳を守り、一人ひとりの思いやニーズに寄り添ったアセスメント、ケア計画の充実、意思決定支援に努める。
- ウ うれしさ、喜び、心地よさなど快の感情を重視したポジティブ支援に努める。また、自発的な役割の提供などにより日々の活動の自信に繋げQOL（生活の質・人生の質・生命の質）の向上に努める。
- エ 認知症の進行、病状の重症化など身体機能の低下に合わせた生活全般に必要な医療的知識や介護技術力の向上を図りそれぞれの暮らしを守る。また、健康管理、通院・往診等かかりつけ医、地域医療機関との連携を図る。
- オ 個々の日常生活スタイルにおける危険シグナルのキャッチを予測し、自由な行動の保障を図る。

(2) 職員の資質向上と人材育成

- ア 基本理念、人権をもとに、認知症の人の尊厳を守るため、傾聴（心の声を聴く）、伝え方（安心できる）など内部研修（OJT）及び外部研修（OFF-JT）を通じてコミュニケーション力、生活を通じて生きる自信に繋げるアセスメント力、ケア計画、チームケア力を高めていく。
- イ 重度化に合わせた医療的知識、技術力の向上を図る。
- ウ 個人研修計画や習熟度に合わせた幅広い研修受講形態を活用し、新たな資格取得チャレンジや自己啓発を推進し人材育成を図る。

(3) 地域社会との連携と認知症理解への取り組み

- ア 2か月ごとに運営推進会議を開催し、くつろぎの情報発信、地域情報に接する機会から社会資源の活用を図りつつ地域の一員として暮らせるよう取り組む。
- イ くつろぎ便りの送付、通信手段を活用した密な情報提供により家族との連携に努め信頼関係（安心）の構築を図る。
- ウ 近隣施設と協力し災害時の迅速な対応に備え、防災訓練や緊急時対応訓練を実施する。

(4) 経営基盤の確立

- ア 医療と連携した健康管理に努め、稼働率97%以上を目指す。
- イ BCPに沿った訓練など感染症の標準予防策を徹底し、あらゆる感染症のまん延防止に努める。また、各災害時の備え、訓練、BCP見直し等平時より有事の際の被害を最小限に抑える対策を講じ入居者の安全な生活を継続する。

(5) 労働環境の整備

- ア ICTの効果的な活用の推進を図り、業務改善や効率化など課題を分析し職員の業務負担軽減に取り組み介護サービスにおける生産性の向上の仕組みを定着させる。
- イ 職員の精神的疲労やストレスなど体調管理や早期相談、ストレスチェック、ハラスメント対策など風通しの良い職場環境、風土作りに努める。